

令和7年度事業報告書

令和7年4月 1日から
令和8年3月31日まで

一般財団法人日本モーターボート競走会

目 次

I. 概 況	・ ・ ・ ・ ・ 1
II. 実施した競走実施業務に関する事業	
1. 競技関係事務	
（1）選手、ボート及びモーターの検査に関する事務	・ ・ ・ ・ ・ 4
（2）競技の審判に関する事務	・ ・ ・ ・ ・ 4
（3）選手の管理に関する事務	・ ・ ・ ・ ・ 5
（4）その他競技運営事務	・ ・ ・ ・ ・ 5
2. 選手、競走に使用するボート及びモーター、審判員並びに検査員の登録	
（1）選手、審判員及び検査員の試験	・ ・ ・ ・ ・ 5
（2）選手、審判員及び検査員の登録	・ ・ ・ ・ ・ 6
（3）ボート・モーターの検査及び登録	・ ・ ・ ・ ・ 6
（4）選手、審判員及び検査員登録資格審査会	・ ・ ・ ・ ・ 7
3. 選手の出場のあっせん	
（1）選手の出場のあっせん	・ ・ ・ ・ ・ 7
（2）選手出場あっせん委員会	・ ・ ・ ・ ・ 8
（3）ボートレースオールスター出場選手選考委員会	・ ・ ・ ・ ・ 9
（4）レディースオールスター出場選手選考委員会	・ ・ ・ ・ ・ 9
（5）選手出場あっせんに関する会議等	・ ・ ・ ・ 10
（6）あっせん及び番組編成支援システムの維持管理及び改善	・ ・ ・ ・ 12
4. 選手、審判員及び検査員の養成及び訓練	
（1）選手、審判員及び検査員の養成	・ ・ ・ ・ 12
（2）選手、審判員及び検査員の訓練	・ ・ ・ ・ 14
（3）ボートレーサー養成所の運営	・ ・ ・ ・ 17
5. 選手、審判員及び検査員の褒賞及び懲戒	
（1）選手、審判員及び検査員の褒賞懲戒審議会	・ ・ ・ ・ 17
（2）公正の確保	・ ・ ・ ・ 18
6. ボート及びモーターの改良、競技に必要な設備の改善並びに競技の実施方法に関する調査及び研究	
（1）競技運営の改善研究	・ ・ ・ ・ 21
（2）事故防止対策	・ ・ ・ ・ 27
（3）ボート等の改善に関する調査研究	・ ・ ・ ・ 31

7. 競走の公正かつ円滑な実施を図るための企画・立案

- (1) 諸体制の強化 3 4
- (2) ボートレースの普及及びイメージアップを図るための広報 3 7
- (3) 集客のための広報 4 2
- (4) ボートレースの発展のための調査研究 4 3
- (5) 関係者の資質向上に関する事業 4 4
- (6) 職員の人材育成に関する事業 4 4
- (7) コンプライアンス委員会 4 5
- (8) その他の事業 4 5

8. 海事知識の普及

- (1) アマチュアモーターボートレースの支援 4 6
- (2) ゴムボート大会等の実施 4 6
- (3) 各地海事広報協会との共同事業の実施 4 6

III. 実施した競走実施業務以外の業務

. 4 8

IV. 理事会、評議員会等の開催及び認可事項

1. 理事会、評議員会等

- (1) 理事会 4 9
- (2) 評議員会 5 1

2. 認可事項

- (1) 役員を選任について 5 1
- (2) 競走実施業務規程の一部改正について 5 1
- (3) 令和7年度収支予算変更について 5 1
- (4) 令和8年度事業計画及び収支予算について 5 1

3. 三規程委員会委員

- (1) 選手、審判員及び検査員登録資格審査会 5 2
- (2) 選手出場あっせん委員会 5 2
- (3) 選手、審判員及び検査員褒賞懲戒審議会 5 2

4. 役員、評議員及び職員

- (1) 役員 5 3
- (2) 評議員 5 3
- (3) 職員等 5 3

5. その他

- (1) 令和8年3月31日現在の株式保有の概要 5 4

I. 概況

令和7年度の総売上は、インターネット投票の会員数拡大とともに、同投票の好調な売上が全体を牽引したことをはじめ、ボートレース場間の開催日程や発売時間の調整、ミッドナイトレースの開催日数拡大等により、対前年度比5.6%増の2兆6,658億円と5年連続で歴代最高売上を更新した。

このような中、国土交通大臣の指定を受けた競走実施機関として、競走実施業務を適切かつ確実に実施することを最重点事業として位置付け、「審判、検査等の競技関係事務」、「選手、ボート・モーター、審判員及び検査員の登録」、「選手の出場のあっせん」、「選手、審判員及び検査員の養成及び訓練」、その他の業務を公正かつ円滑に実施した。

競技運営においては、よりの確な判定を行うためSG審判員制度を継続実施したほか、競技運営に関する監査委員会による審判・検査業務及びその他公正安全な競技運営の実施に関する監査を行った。また、競技運営事務のデジタル化を推進するため、競走参加選手を確認するための生体認証システムと連動して、測定した体重が競技情報入力端末に自動で反映されるシステムを開発し、2場に先行導入した。ボート・モーター抽選業務については、効率化及び抽選結果を競技情報入力端末に自動入力化することを目的として、ICチップ入り抽選玉を使用したボート・モーター抽選システムの研究・開発を行い、2場に先行導入した。また、ボートレース徳山において発生した失格判定の誤りに対する再発防止策として、SG審判員による審判業務の点検及び指導、他場の審判業務を視察して判定基準及び審判機器等について意見交換を行う講習会や、職場の活性化や人間関係の構築に必要とされるコミュニケーション能力の向上を目的とした研修を行った。

レースの公正を害する行為の再発防止のため、選手指導を徹底するとともに、選手が使用するキャリーケースの統一化及び検査要領の改善を図るなど、管理・検査体制を強化し、また、競走における一層の公正確保を図るため、公正指導員を増員した。さらに、モラル向上を図るため、選手定期訓練においてモラル・コンプライアンス講話を実施した。

人身事故防止については、人身事故映像を用いた指導を行うとともに、救命胴衣等の防護具の安全性向上に関する調査研究を行った。

スタート事故防止においては、スタート事故率が0.265（目標0.29以内）、返還率が1.04%（目標1.20%以内）となり、6年ぶりに両目標の達成となった。事故防止策として、スタート事故防止強化場を指定し、当該場においてスタート事故防止に効果的な設備、指導方法の見直しを行うとともに、スタート事故防止に向けたテクノロジー活用研究委員会と連携し、大時計映像補助表示用LEDモニタ及びスタート時における警告システムに関する調査を行った。

選手宿舎においては、電波遮断装置及び電波検知装置の導入場を増やすとともに、備品等の充実化を図った。

養成訓練においては、訓練の質の向上を図るため、体幹強化に必要な設備や器具を活用し、トレーニングを実施した。また、審判員・検査員養成訓練においては、訓練期間の短縮等による課業内容の適正化を図った。

スター選手の育成においては、トップルーキー及びフレッシュルーキー対象選手を新たに選出し、操縦・整備の実技訓練やプロ意識・メンタル等の向上を目的とした講習会を実施したほか、広報活動として、注目度の高い選手のプロモーション活動やマスメディアへの露出を積極的に展開した。

さらに、競走実施業務に携わる職員等の資質向上を図るため、コンプライアンスに対する意識付けや知識習得等を目的とした階層別の研修会を実施した。

その他、政府のカーボンニュートラル方針を踏まえ、レース用燃料としてエタノール混合燃料を2場に先行導入し、CO₂の削減を図るとともに、選手宿舎に太陽光発電設備を導入した。

Ⅱ. 実施した競走実施業務に関する事業

1. 競技関係事務

下表の競走実施に伴い、モーターボート競走法第33条第1号に基づき、以下の競技関係事務を実施した。

なお、開催日数は前年度より3日少ない4,620日となった。

レース場	開催日数
桐 生	194日 (全日程ナイター)
戸 田	198日
江戸川	180日
平和島	180日
多摩川	194日
浜名湖	206日
蒲 郡	200日 (全日程ナイター)
常 滑	200日
津	192日
三 国	192日
琵琶湖	186日
住之江	198日 (うちナイター192日)
尼 崎	186日
鳴 門	186日
丸 亀	200日 (全日程ナイター)
児 島	180日
宮 島	201日
徳 山	192日
下 関	194日 (全日程ナイター、うちミッドナイト49日)
若 松	197日 (全日程ナイター、うちミッドナイト30日)
芦 屋	192日
福 岡	192日
唐 津	180日
大 村	200日 (全日程ナイター、うちミッドナイト59日)
合 計	4,620日 (うちナイター1,377日)

(1) 選手、ボート及びモーターの検査に関する事務

モーターボート競走法第33条第1号に基づき、選手、ボート及びモーターの検査を行った。選手に対する検査は、身体上の支障の有無、体重等の測定を行い、ボート及びモーターに対する検査は、「ボート及びモーター登録規格」に規定する要件及び構造上の欠陥の有無等の確認を有資格者である検査員が行った。

また、公正を害する行為の再発防止の観点から、選手が使用するキャリーケースの統一化及び検査要領の改善を図るとともに、全場に配備したゲート型及びハンディ型金属探知機を活用し、私物検査を行った。

さらに、競走参加選手を確認するための生体認証システムと連動して、測定した体重が競技情報入力端末に自動で反映されるシステムを開発し、ボートレース戸田及び若松に先行導入した。

(2) 競技の審判に関する事務

モーターボート競走法第33条第1号に基づき、競走に出場したモーターボートの出走、失格及び着順を判定し、並びに勝舟の決定を有資格者である審判員が行った。

また、判定用カメラ（センターカメラ及び各コーナーカメラ）の映像を活用した審判判定を行うとともに、出場選手に対しては、過去の事故映像を用いた指導や競走水面の特性等についての指導を行った。

なお、令和7年4月にボートレース徳山において発生した失格判定の誤りに対する再発防止策として、SG審判員による審判業務の点検及び指導を行うとともに、ボートレーサー養成所における審判員・検査員養成員を対象とした現役審判員の招聘訓練回数の増加及びレース回顧等による指導の徹底を図った。

さらに、ボートレーサー養成所において実施する若手職員（登録5年未満）対象の審判員・検査員定期訓練における審判実技訓練、他場の審判業務を視察して判定基準及び審判機器等について意見交換を行うことを目的とした審判委員長・副審判委員長対象の講習会、コミュニケーション能力向上に関する研修及び徳山支部審判員を対象とした特別訓練を実施したほか、審判判定研究部会等において審議制度の検討を行った。

(3) 選手の管理に関する事務

モーターボート競走法第33条第1号に基づき、競走に出場する日の前日に行う前日検査から管理解除までの間、選手に対する規則の遵守指導や外部との遮断措置を講じる等、競走の公正確保を徹底した。

公正を害する行為の再発防止の観点から、更なる選手管理を徹底するため、前日検査時に全能力を発揮するよう指導を行うとともに、競技部内における抜き打ち私物検査の実施、職員の巡回等による監視体制の強化、記者を含めた関係者による通信機器の使用禁止の徹底を図った。さらに、選手宿舎においては、電波遮断装置をボートレース平和島へ新規導入するとともに、電波検知装置をボートレース桐生、津、宮島、徳山、下関、芦屋及び福岡へ新規導入した。

また、競技部に医務員として医師及び看護師を配置し、身体及び精神上的の支障の有無の確認等、選手の健康管理を行った。

(4) その他競技運営事務

モーターボート競走法第33条第1号に基づき、法令やマニュアルに則った運用を徹底し、不備のないようモーターボートの確認、出場準備、紹介、選手の救助、番組の編成、燃料の管理、選手宿舎の運営等に関する事務を行った。

また、選手管理エリアにおける火災防止のため、喫煙室内への監視カメラの設置や可燃物の撤去を行ったほか、有事に備え、参加選手に対する避難経路図並びに非常口開錠方法の周知徹底及び避難訓練・自衛消防訓練を実施した。

また、カーボンニュートラル対応への取り組みとして、環境への影響に配慮したエタノール混合燃料をレース用燃料とし、ボートレース琵琶湖及び大村に先行導入した。

2. 選手、競走に使用するボート及びモーター、審判員並びに検査員の登録

(1) 選手、審判員及び検査員の試験

選手資格検定試験を2回（第175回、第176回）、審判員資格検定試験を1回（第133回）、検査員資格検定試験を1回（第113回）実施し、選手52名、審判員19名、検査員19名が合格した。

(2) 選手、審判員及び検査員の登録

(ア) 登録更新検査及び再登録検査

登録更新検査（選手13回、審判員13回、検査員13回）を実施した。

(イ) 登録及び登録消除

項目	選手	審判員	検査員
令和6年度末の登録者	1,616名 (272)	437名 (13)	439名 (13)
登録者(再)	1名 (0)	0名 (0)	0名 (0)
登録者(新)	52名 (19)	19名 (0)	19名 (0)
消除者	27名 (4)	12名 (0)	11名 (0)
令和7年度末の登録者	1,642名 (287)	444名 (13)	447名 (13)

()内は女子の人数

(ウ) 選手、審判員及び検査員登録事務のデジタル化

電磁的記録媒体による管理に移行した選手、審判員及び検査員登録簿について、
確実な運用により情報管理を徹底した。

(3) ボート・モーターの検査及び登録

(ア) 登録検査

ボート及びモーターの登録検査を各所有者の申請に基づき、レース場（ボート
については、ヤマト発動機株式会社で実施）において、ボート25回、モーター
22回実施した。

(イ) 登録及び登録消除

項目	ボート	モーター
令和6年度末の登録数	1,494隻	1,454基
登録数(再)	0隻	0基
登録数(新)	1,424隻	1,386基
消除数	1,364隻	1,330基
令和7年度末の登録数	1,554隻	1,510基

(ウ) ボート及びモーター登録事務のデジタル化

電磁的記録媒体による管理に移行したボート及びモーター登録簿について、
確実な運用により情報管理を徹底した。

(4) 選手、審判員及び検査員登録資格審査会

選手、審判員及び検査員登録資格審査会を1回（第66回）開催し、登録資格
審査会運営の基本方針について審議検討を行った。

3. 選手の出場のあっせん

(1) 選手の出場のあっせん

モーターボート競走法第33条第3号に基づき、競走の公正、安全かつ円滑な
実施を図るため、選手の出場あっせんを行った。

項目 月	選手 総数	あっせん日数				開催 日数
		A 1	A 2	B 1	B 2	
4月	1,616	13.9	13.9	10.8	7.1	352
5月	1,616	15.8	15.4	12.7	10.5	419
6月	1,615	14.5	14.4	12.1	9.5	399
7月	1,610	16.5	16.5	13.8	10.8	430
8月	1,610	15.2	15.0	12.1	9.5	422
9月	1,606	13.2	13.1	11.0	8.3	354
10月	1,605	12.8	12.4	10.5	7.7	345
11月	1,626	12.9	12.8	9.3	6.2	329
12月	1,625	14.5	14.4	11.6	8.7	399
1月	1,623	15.6	15.5	12.8	10.2	434
2月	1,621	13.4	13.1	10.3	8.1	348
3月	1,621	14.3	14.2	12.1	9.3	389
令和7年度平均	1,616	14.4	14.2	11.6	8.8	385

(2) 選手出場あっせん委員会

「選手出場あっせん規程」に基づき、選手級別の決定及び選手出場あっせん保留等、選手の出場のあっせんに関する重要事項を審議するため、2回開催した。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
218	令和7年 5月 9日	青葉六本木 ビル	5名	(審議事項) 1. 選手の競走成績の取扱いについて 2. 選手級別の決定について (報告事項) 1. 選手出場あっせん規程 実施細則第7条第1項 第8号該当選手について 2. 選手出場あっせん規程 実施細則第12条第1項 第2号適用選手について 3. 選手出場あっせん規程 実施細則第12条第1項 第3号適用選手について 4. 令和6年度選手出場あっ せんの状況について 5. 令和7年のあっせん拒否 状況について
219	11月11日	青葉六本木 ビル	5名	(審議事項) 1. 選手級別の決定について (報告事項) 1. 選手出場あっせん規程 実施細則第7条第1項 第8号該当選手について 2. 選手出場あっせん規程 実施細則第12条第1項 第2号適用選手について 3. 選手出場あっせん規程 実施細則第12条第1項 第3号適用選手について 4. 令和7年度選手出場あっ せんの状況について 5. 令和8年のあっせん拒否 状況について

(3) ボートレースオールスター出場選手選考委員会

全国ファン投票による出場選手の選考を行った。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
1	令和7年 11月21日	BOATRACE 六本木	6名	1. 第53回ボートレース オールスターファン投票 の実施方法について
2	令和8年 3月 4日	BOATRACE 六本木	6名	1. 第53回ボートレース オールスターファン投票 の実施結果について 2. 第53回ボートレース オールスター出場選手の 選考について

(4) レディースオールスター出場選手選考委員会

全国ファン投票による出場選手の選考を行った。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
1	令和7年 11月21日	BOATRACE 六本木	6名	1. 第11回レディースオー ルスターファン投票の 実施方法について
2	令和8年 3月 4日	BOATRACE 六本木	6名	1. 第11回レディースオー ルスターファン投票の 実施結果について 2. 第11回レディースオー ルスター出場選手の選考 について

(5) 選手出場あっせんに関する会議等

(ア) あっせん事務連絡会議

あっせん業務の円滑な実施を図るため、次年度のあっせんに関する方針、規則改正等を関係者に周知するため開催した。

実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
令和7年 12月12日	ビジョン センター品川 及び 各レース場 (リモート)	86名	(検討事項) 1. 令和8年度グレード別 競走開催予定表について 2. 令和8年度G I・G II 競走の選出方法について 3. 令和8年度女子選手あっ せんについて 4. 令和8年度企画レースの 申請について 5. 2026スター候補選手 について 6. ルーキーシリーズ及び ヴィーナスシリーズ 出場対象選手について 7. ICチップ入りボート・ モーター抽選システム の導入・運用について 8. ボートレーサーポータル サイトに係る今後の運 用について (報告事項) 1. 令和7年度不参加・出場 取消状況等について等

(イ) 地区別あっせん研究会

あっせん業務の円滑な実施を図るとともに、現行制度、規則等の改善点を研究、協議するため開催した。

実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
令和7年 7月14日	リファレンス 駅東ビル	23名	1. あっせんに関する諸問題 について
7月28日	リファレンス 大阪第4ビル	13名	
8月 1日	BOATRACE 六本木 及び 各レース場 (リモート)	37名	

(ウ) 番組編成業務検討会

番組編成業務の円滑な実施を図るとともに、現行制度、規則等の改善点を検討するため開催した。

実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
令和7年 8月22日	BOATRACE 六本木 及び 各レース場 (リモート)	40名	(検討事項) 1. ポートレースバトルチャンピオントーナメント競走実施要綱について 2. ファン感謝3days ポートレースバトルトーナメント実施要綱について

(6) あっせん及び番組編成支援システムの維持管理及び改善

あっせん及び番組編成支援システムの効率化を図るため、振興会と協力して、作業上の各種改善を図るとともに、同システムの維持管理に努めた。

また、レース場と選手とのコミュニケーションツールとして導入した緊急連絡網サービスを利用し、施行者から参加選手へあっせん通知書のデジタル送付を開始するとともに、各種あっせん手続きはボートレーサーポータルサイトからのインターネット申請に一本化したことで、利便性の向上と業務のペーパーレス化を図った。

さらに、ボート・モーター抽選業務の効率化及び抽選結果を競技情報入力端末に自動入力化することを目的として、ICチップ入り抽選玉を使用したボート・モーター抽選システムの研究・開発を行い、ボートレース蒲郡及び鳴門に先行導入した。

4. 選手、審判員及び検査員の養成及び訓練

(1) 選手、審判員及び検査員の養成

(ア) 選手の養成

モーターボート競走法第33条第4号に基づき、選手の養成を行った。選手の養成訓練においては、訓練の質の向上を図るため、体幹強化に必要な設備や器具を活用し、体幹・下肢筋力の強化、怪我防止に有効なトレーニング方法に関する教育を選手養成員に実施した。

また、操縦指導用に各ターンマーク後方45度の位置、直線位置、バックストレッチ120m位置に設置したカメラの映像を活用することで効率的かつ効果的な訓練を行った。併せてモラル・プロ意識の付与を目的としたアスリート思考に関する講話や、健康的な身体づくりのための栄養学に関する指導により、体質別の食事指導・適切な減量方法に関する教育を実施した。

その他、選手養成訓練入所試験における試験項目の見直しを図り「選手、審判員及び検査員養成訓練規程実施細則」の一部改正を行った。

期別 区分	第137期 選手				第138期 選手				第139期 選手			
	一般		特別		一般		特別		一般		特別	
応募者数	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
		791	195	0	0	843	230	1	0	807	198	0
第1次 合格者数	148	48	—	—	147	48	—	—	148	48	—	—
第2次 合格者数	80	25	—	—	79	25	—	—	82	26	—	—
第3次 合格者数	36	14	0	0	36	14	0	0	36	14	0	0
入所者数	36	14	0	0	35	14	0	0	36	14	0	0
養成期間	令和6年10月1日 ～ 令和7年9月19日				令和7年4月1日 ～ 令和8年3月19日				令和7年10月1日 ～ 令和8年9月18日 (予定)			
修了者数 又は 現在員数	男		女		男		女		男		女	
	15		9		18		10		16		9	

※第137期から第138期へ女子1名編入

※第138期から第139期へ男子1名編入

(イ) 審判員及び検査員の養成

モーターボート競走法第33条第4号に基づき、審判員及び検査員の養成を行った。審判員及び検査員の養成訓練においては、養成訓練期間の短縮等による課業内容の適正化を図るなど「選手、審判員及び検査員養成訓練規程」の一部改正内容に則り実施した。また、SG審判員、審判委員長や検査長を招聘し、審判及び検査実技の充実を図った。

期別 区分	第89期審判員 第90期検査員	
	男	女
応募者数	50	2
合格者数	30	0
入所者数	21	0
養成期間	令和7年4月1日 ～ 令和8年1月31日	
修了者数	19	0

(2) 選手、審判員及び検査員の訓練

(ア) 選手定期訓練

モーターボート競走法第33条第4号に基づき、1,464名の選手（登録2年以上の者）を対象に、16回にわたり競走の健全化及び技術の向上を図るため、指導を行うとともに、併せて選手の資質向上を図るため、講話・講義等を実施した。

回	実施年月日	実施場所	参加者数	内容
1	令和7年 5月13日 ～15日	ボートレーサー 養成所	98名	1. 業務指導 (1) 業務部 (2) 調査室
2	5月21日 ～23日		93名	2. 講話 (1) モラル・コンプライア ンス講話
3	5月26日 ～28日		98名	(2) トップアスリート講話
4	6月2日 ～4日		99名	(3) 競技能力維持・向上の ためのストレングス& コンディショニングト レーニング
5	6月18日 ～20日		99名	

6	6月25日 ～27日	ボートレーサー 養成所	99名	(4) 公営競技選手の在り方 (登録10年選手のみ)
7	6月30日 ～7月2日		95名	3. 操縦 (1) LED大時計を用いた スタート
8	7月7日 ～9日		87名	4. 体育
9	7月16日 ～18日		96名	(1) 感覚統合トレーニング (2) コンディショニング ストレッチ及び体幹トレーニング
10	7月22日 ～24日		94名	(3) 体組成測定
11	9月10日 ～12日		92名	
12	9月24日 ～26日		89名	
13	10月28日 ～30日		89名	
14	11月5日 ～7日		83名	
15	12月1日 ～3日		84名	
16	令和8年 2月24日 ～26日		69名	

(イ) 新人選手定期・臨時訓練

モーターボート競走法第33条第4号に基づき、113名の選手（登録2年未満の者及び登録5年未満のB1級以上未経験の者）を対象に、4回にわたり競走の健全化及び技術の向上を図るため、操縦を主体とした実技訓練及び指導等を実施した。

回	実施年月日	実施場所	参加者数	内容
1	令和7年 9月2日 ～5日	ボートレーサー 養成所	30名	1. 操縦 2. 整備学 3. 業務指導
2	10月6日 ～9日		24名	(1) 業務部 (2) 調査室 4. 講話
3	10月14日 ～17日		28名	(1) モラル・コンプライア ンス講話

4	10月21日 ～24日		31名	(2)パフォーマンスを向上させるためのテーピング講座 5. 体育 (1)体組成測定
---	----------------	--	-----	-------------------------------------------------

(ウ) 選手会支部別自主訓練

選手の資質向上並びにスター選手育成を目的として、レース場等において模擬レース等の実技訓練を行い、新人選手を中心とした指導を行った。

(エ) 審判員及び検査員定期訓練

モーターボート競走法第33条第4号に基づき、428名の審判員及び検査員を対象に、15回にわたり競走の健全化及び競技運営の技術の向上を図るため、業務報告を行うとともに、併せて審判員及び検査員の資質向上を図るため、実務に即した講話・実技訓練等を実施した。

回	実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
1	令和7年 11月 1日 ・ 2日	ボートレース 戸田	41名	1. 業務報告 (1)業務部 (2)調査室 (3)企画部 2. 講話 (1)モラル・コンプライアンス講話 (2)チームビルディングコミュニケーション講座 3. 施設見学(レース場のみ) 4. 救急救命法(第4・8・12・14回のみ) 5. 審判実技訓練(第5・6・9回若手職員のみ) 6. 検査実技訓練(第5・6・9回若手職員のみ)
2	11月11日 ・12日	ボートレース 浜名湖	22名	
3	11月16日 ・17日	ボートレース 大村	29名	
4	11月21日 ・22日	ボートレーサー 養成所	47名	
5	11月26日 ・27日	ボートレーサー 養成所	21名	
6	12月16日 ・17日	ボートレーサー 養成所	20名	
7	12月21日 ・22日	ボートレース 大村	24名	
8	令和8年 1月27日 ・28日	ボートレーサー 養成所	29名	
9	2月 1日 ・ 2日	ボートレーサー 養成所	21名	
10	2月 4日 ・ 5日	ボートレース 大村	42名	
11	2月 7日 ・ 8日	ボートレース 浜名湖	21名	

12	2月12日 ・13日	ボートレーサー 養成所	19名	
13	2月15日 ・16日	ボートレース 戸田	26名	
14	2月18日 ・19日	ボートレーサー 養成所	34名	
15	2月21日 ・22日	ボートレース 戸田	32名	

(3) ボートレーサー養成所の運営

(ア) 施設の維持管理

各種設備、機材及び機器類の点検管理に万全を期し、選手、審判員及び検査員の養成訓練並びに定期訓練の施設としての機能維持に努めるとともに、修繕計画に基づく各種設備、機材及び機器類の修繕等を行った。

(イ) 施設の活用

選手、審判員及び検査員の養成訓練並びに定期訓練の施設として活用した。

5. 選手、審判員及び検査員の褒賞及び懲戒

(1) 選手、審判員及び検査員の褒賞懲戒審議会

「選手、審判員及び検査員褒賞懲戒規程」に基づき、褒賞及び懲戒に関する事項を審議するため、選手、審判員及び検査員褒賞懲戒審議会を6回開催した。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
364	令和7年 5月 1日	青葉六本木 ビル	10名	審判員の懲戒 6名
365	5月16日	青葉六本木 ビル	10名	選手の褒賞 12名 審判員・検査員の褒賞 2名 選手の懲戒 3名
366	7月24日	青葉六本木 ビル	10名	選手の褒賞 12名 審判員・検査員の褒賞 1名 選手の懲戒 6名
367	10月 7日	青葉六本木 ビル	10名	選手の褒賞 13名 審判員・検査員の褒賞 8名 選手の懲戒 6名 検査員の懲戒 2名
368	12月10日	青葉六本木 ビル	10名	選手の褒賞 7名 選手の懲戒 3名

369	令和8年 2月27日	青葉六本木 ビル	10名	選手の褒賞 28名 審判員・検査員の褒賞 6名 選手の懲戒 6名
-----	---------------	-------------	-----	----------------------------------------

(2) 公正の確保

(ア) 競走の公正を害する行為の防止対策の調査研究

(a) 全国公正指導委員会議

競走運営の健全化を図るため、競走の公正を害する行為の防止に関する調査研究及び選手の動向調査並びに指導事項の検討を行った。

実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
令和8年 3月5日	BOATRACE 六本木	40名	1. 褒賞懲戒審議会の結果について 2. 選手関係諸問題について 3. 選手指導について 4. 諸情報の交換

(b) 公正業務の現地調査

公正指導員等がレース場等に赴き、競走の公正を害する行為の防止を図った。また、公正指導員をさらに増員して諸情報を収集することにより、競走における一層の公正確保を図るため、福井県警察、徳島県警察及び長崎県警察の警察退職者に対し採用活動を行った。

(c) 公正指導員会議

円滑かつ効果的な調査活動を促進するため、各地区の公正指導員に対し調査活動に必要な知識を付与し、併せて情報の交換を行った。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
1	令和7年 9月16日	青葉六本木 ビル	19名	1. 諸情報の交換
2	令和8年 3月5日	青葉六本木 ビル	19名	

(d) 公営競技公正連絡会議

公営競技5団体相互の緊密な連携を図るとともに、公営競技の健全な発展を期すため、情報の交換を行った。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
94	令和7年 8月7日	品川 シーズンテラス	25名	1. 諸情報の交換
95	12月4日	松戸競輪場	27名	

(e) ボートレースの公正確保に関する検証委員会

ボートレースの公正確保に必要な事項について、専門的な知識を有する関係者等による検証を行った。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
9	令和8年 3月10日	青葉六本木 ビル	10名	1. 諸情報の報告

(f) 競走の公正に関する業務連絡会

競走の公正に関する諸業務について、競走会、選手会、全施協、振興会及び保安協会の5団体間での情報交換と情報共有を図ることを目的として開催した。

実施年月日	実施場所	内 容
令和8年 3月3日	青葉六本木 ビル	1. 競走の公正に関する業務連絡会について 2. 競技運営に関する監査委員会の報告 3. 業務監査委員会の報告 4. 競走会、選手会による業務連絡会の報告

(g) インターネットの監視システムの運用

SNS等における公正を害する恐れのある行為に関する書き込み並びに選手の発信内容について、外部業者によるインターネット上の監視を行った。また、新たにSNS調査担当者による専門的な監視を開始し、監視体制の強化を図った。

(イ) ふれあい研修会

本会支部が主催するふれあい研修会において、選手及び家族に対して選手という職業への理解を深めるための指導を行った。

実施年月日	実施回数	参加者数
令和7年 8月～12月	19回	総数 740名 選手 351名 家族 290名 関係者 99名

(ウ) 選手の指導強化

(a) SNSの使用に関する指導強化

選手定期訓練、ふれあい研修会等において「SNSに関する行動規範・指針・ガイドライン等」の遵守について指導を行った。

(b) 新人選手の指導強化

「新人選手指導要領」に基づき、選手会及び公正指導員と協力し、個人面談等において初出走に向けた心構え等の指導や、選手会主催の再訓練において新人選手の懲戒事例や各種事故の状況について指導を行った。

(c) 保安協会との地区別情報交換会議

保安協会との緊密な連携を図るとともに、ボートレースの健全な発展を期すため、情報の交換を行った。

実施年月日	実施場所	出席者数	内容
令和7年 7月28日	BOATRACE 六本木	18名	1. 選手関係諸問題 2. 諸情報の交換
9月 5日	浜松駅前ビル	17名	
10月 5日	TKPガーデンシティ 広島駅前	17名	
11月 9日	TKPガーデンシティ 京都タワーホテル	18名	
11月22日	アクア博多	18名	

(d) 面談による選手の指導

全選手を対象とした「モーターボート競走選手倫理規程」やモラル・コンプライアンスを確認する面談を実施し、特に登録10年未満の選手に対しては複数回の面談を実施した。

(エ) 内部通報制度による情報収集

選手及びその家族に対し、私生活上の諸問題、仕事に関する疑問等について相談できる環境づくりとして、従来のフリーダイヤル対応のほか、メールによる相談対応を行う等、情報収集に努めた。また、新人選手やその家族に対し、フリーダイヤル等の周知を行った。

6. ボート及びモーターの改良、競技に必要な設備の改善並びに競技の実施方法に関する調査及び研究

(1) 競技運営の改善研究

(ア) 競技運営の改善、合理化

(a) 競技運営研究委員会

競走運営の円滑な実施を図るため、競技運営、選手関係諸問題等、現行諸制度について検討した。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内容
123	令和7年 12月23日	青葉六本木 ビル	8名	1. 選手のコンタクトレンズ等の使用について 2. ダイヤモンドカップ競走等の開催条件について 3. モーターボート大賞競走での企画レースの実施について 4. グランプリトライアルの得点について 5. ボートレースバトルチャンピオントーナメント競走の勝ち上がり方式について

124	令和8年 1月30日	青葉六本木 ビル	9名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 選手のコンタクトレンズ等の使用について 2. ダイヤモンドカップ競走等の開催条件について 3. モーターボート大賞競走での企画レースの実施について 4. グランプリ・クイーンズクライマックスストライアルの得点について 5. ボートレースバトルチャンピオントーナメント競走の勝ち上がり方式について
-----	---------------	-------------	----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(b) 各種実務担当者会議

①審判委員長・競技委員長会議

競技運営の円滑な実施を図るため、各地の審判委員長及び競技委員長を招致し、競技運営上の諸問題について検討した。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
1	令和7年 10月 3日	青葉六本木 ビル 及び各支局 (リモート)	48名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 競走の公正確保について 2. スタート事故防止対策について
2	令和8年 3月 6日	青葉六本木 ビル 及び各支局 (リモート)	47名	<ol style="list-style-type: none"> 3. 競技運営関係諸問題について 4. 審判関係諸問題について

②緊急審判委員長会議

ポートレース徳山において発生した失格判定の誤りに関して、情報共有及び職務内容等の再確認を行った。

実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
令和7年 5月 2日	青葉六本木ビル 及び各支局 (リモート)	35名	1. 4月18日ポートレース 徳山第6レースについて 2. 審判業務について
5月 6日	青葉六本木ビル 及び各支局 (リモート)	15名	

③地区代表実務検討会

地区別実務検討会においてとりまとめられた結果を代表支部が持ち寄り、検討を行った。

実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
令和8年 2月12日	青葉六本木ビル 及び各支局 (リモート)	15名	1. 競技運営関係諸問題について

④審判判定研究部会

競技運営の円滑な実施を図るため、各地の審判委員長・副審判委員長を招致し、審判判定上の諸問題について検討した。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
1	令和7年 9月18日	青葉六本木 ビル 及び各支局 (リモート)	21名	1. 審判判定の統一に向けた 検討について
2	12月 4日	青葉六本木 ビル 及び各支局 (リモート)	21名	

⑤ S G 競走等実施要綱打合せ会議

全国発売対応として、競走運営の統一を図るため開催した。

実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
令和 8 年 1 月 2 7 日	ビジョンセンター品川 及び各レース場 (リモート)	8 4 名	1. 令和 8 年度 S G 競走等 実施要綱 (案) について

⑥ 私物検査強化に関する事務連絡会議

検査要領の改善を図るため、私物検査上の諸問題について検討した。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
1	令和 7 年 4 月 1 0 日	青葉六本木 ビル 及び各支局 (リモート)	3 5 名	1. 私物の持ち込み方法に 関する要領について 2. 宿舎間移動用バック・身の 回り品用バック格納庫の 配備状況の確認について
	4 月 1 4 日		2 6 名	
	4 月 1 7 日		2 5 名	
2	6 月 6 日	青葉六本木 ビル 及び各支局 (リモート)	2 6 名	1. 私物の持ち込み方法に 関する要領の運用につい て
	6 月 1 0 日		1 9 名	
	6 月 1 2 日		2 6 名	

⑦ レスキュー講習会

レスキュー艇要員の更なる救助体制の充実と技量向上を目的として、海上保安庁及び公益社団法人日本水難救済会職員の指導による「レスキュー救助の留意点」の実技訓練等を実施した。

回	実施年月日	実施場所	参加支部等	内 容
1	令和 7 年 1 1 月 1 0 日	ボートレース 蒲郡	蒲郡 三国 尼崎 徳山	1. 業界の一般情勢 2. V T R 検証・指導 3. 日本水難救済会による 講義及び実技指導 4. 救助実技 5. モラル・コンプライアンス 講義
2	1 1 月 2 8 日	ボートレース 児島	琵琶湖 児島 宮島 唐津	

3	12月5日	ボートレース 多摩川	江戸川 平和島 多摩川 浜名湖
4	2月6日	ボートレース 若松	下関 若松 芦屋 大村
5	2月16日	ボートレース 丸亀	住之江 鳴門 丸亀 福岡 養成所
6	2月20日	ボートレース 常滑	桐生 戸田 常滑 津

(c) 競技運営に関する調査研究

競技運営上の諸問題に関する各種調査研究として、ボートレース三国及び住之江における判定用カメラを更新したほか、鳴門に導入しているマルチアングルシステムの効果検証を行うとともに、ボートレース桐生、多摩川及び三国に自動展示タイム計測システムを導入した。

また、お客さまの注目度の最も高いSG競走及びプレミアムGI競走において、よりの確な判定を行うため、SG審判員が審判業務に関する調査研究を行った。

(d) 競技運営に関する監査委員会

法令に基づく公正かつ健全な競技運営に努めるため、審判、検査及びその他公正安全な競技運営の実施に関する監査が行われた。

回	実施年月日	実施場所	内 容
1	令和7年 8月1日 ・2日	ボートレース 唐津	1. 審判業務に関する監査 2. 検査業務に関する監査 3. 公正安全な競技運営の実施に関する監査（実地監査及び書面監査）
2	8月24日 ・25日	ボートレース 徳山	
3	12月8日	ボートレース 蒲郡	
4	12月9日	ボートレース 浜名湖	
5	令和8年 2月25日 ・26日	ボートレース 常滑	

(e) 競走運営に関する業務連絡会

選手会と競走運営に関する諸問題について、情報交換と情報共有を図り、危機管理の徹底と競走の公正の確保に努めることを目的として、12回開催した。

(イ) 水上施設の改善研究等

スタートに係る各種標識等の改善に関しての調査を行うとともに、施設・設備を維持管理し、故障・不具合等を未然に防止するために策定した水上施設の点検ガイドラインに基づく点検を行った。

(ウ) 選手宿舎施設の改修等

カーボンニュートラル対応推進のため、ボートレース津の選手宿舎に太陽光発電設備を導入した。

また、選手宿舎各居室への空気清浄機の配備や日本レジャーチャンネルの視聴チャンネルを増加し、生活環境の向上及び備品等の充実化を図った。

なお、公正確保の徹底を図るため、選手宿舎において、Ⅱ. 1. (3) 及び(4)に記載の措置を講じた。

(2) 事故防止対策

(ア) 各種事故の調査研究

(a) スタート事故

年間スタート事故防止目標を設定し、注意を喚起するとともに、事故防止目標、連続無事故20日以上を達成した支部に対し表彰を行った。

併せて、スタート事故防止強化場を指定し、当該場においてスタート事故防止に効果的な設備・指導方法の見直し等を行った。

(b) 人身事故

各地で発生した人身事故映像をもとに、選手定期訓練において映像を用いた指導を行った。

また、前日検査において、各レース場で発生した人身事故映像をもとに、各支部がレース場固有の事故に対する指導を行った。

(イ) スタート事故防止に関する選手指導

スタート事故防止に関し、具体的な目標数値や事故状況等のデータ提供により選手指導を行ったほか、スタート事故防止強化期間において、優勝戦、ルーキーシリーズ及びヴィーナスシリーズでの選手責任事由によるスタート事故者を本部に召致し、指導することでスタート事故防止の意識向上を図った。

また、各種事故防止に向けた指導強化のため、デジタルサイネージ、空中線ライブ映像カメラ等のデジタル機材を活用し、視覚によるリアルタイムでの気象情報等の伝達を図った。

なお、各種スタート事故防止目標の達成については、次のとおりであった。

(a) 事故率0.29以内かつ返還率1.20%以内

レース場	事故率	返還率
徳山	0.146	0.51%
若松	0.183	0.68%
下関	0.186	0.58%
尼崎	0.194	0.62%
浜名湖	0.209	0.90%
多摩川	0.232	1.04%
三国	0.234	0.94%
戸田	0.242	0.80%

児 島	0.250	0.98%
住之江	0.273	0.78%
桐 生	0.284	0.95%
蒲 郡	0.285	0.95%

(b) 連続スタート無事故

スタート無事故を連続20日以上達成したのは、ボートレース平和島、多摩川、浜名湖、蒲郡（1年間で2度達成）、常滑、津、三国（1年間で2度達成）、琵琶湖、尼崎（1年間で2度達成）、鳴門、宮島（1年間で2度達成）、徳山及び若松（1年間で2度達成）の計13場であった。

(c) 全国レース場事故率0.29以内かつ地元レース場事故率0.29以内（選手会支部）

令和6年11月～令和7年4月

選手会支部	全国事故率	地元事故率
佐 賀	0.177	0.206
静 岡	0.185	0.117
山 口	0.203	0.161
福 井	0.267	0.082
兵 庫	0.275	0.197
滋 賀	0.282	0.257
長 崎	0.287	0.240
愛 知	0.289	0.279

令和7年5月～10月

選手会支部	全国事故率	地元事故率
広 島	0.190	0.057
山 口	0.220	0.141
香 川	0.250	0.197
福 岡	0.253	0.276
東 京	0.278	0.285

(ウ) 人身事故等の防止に関する選手指導

選手の人身事故防止に対する意識の高揚を図るとともに、人身事故の未然防止を促進するため、未然防止に貢献のあった選手を表彰した。

登録番号	被表彰選手	登録番号	被表彰選手
3563	堤 昇	3581	加木 郁
3662	大庭 元明	3778	安達 美帆
3859	多羅尾 達之	3977	山本 兼士
4033	伊藤 将吉	4172	森定 晃史
4190	長嶋 万記	4215	吉島 祥之
4261	岡 祐臣	4272	大場 広孝
4518	大須賀 友	4627	藤原 菜希
4714	喜多須 杏奈	4754	松尾 充
4943	八木 治樹	4961	西橋 奈未
5039	倉田 茂将	5047	國分 将太郎
5136	濱野 斗馬	5354	渡邊 雄斗
5391	出穂 和鼓		

(エ) テクノロジーを活用したスタート事故防止に関する調査研究

スタート事故防止に向けたテクノロジー活用研究委員会と連携し、大時計映像補助表示用LEDモニタ及びスタート時における警告システムに関する調査を行った。

(オ) 技術連絡会議

ボート・モーター等に関する性能向上、事故防止対策等について協議を行った。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
1	令和7年 9月30日	BOATRACE 六本木 及び 各レース場 (リモート)	79名	<p>(報告事項)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各種事故概要 2. 当面の事故防止対策 <ol style="list-style-type: none"> (1) 防護具の開発・改善 (2) ボート・モーターの開発・改善 <p>(審議事項)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「シールド用はっ水剤の取扱いについて」「シールド用くもり止め剤の取扱いについて」の廃止について 2. 「個人ヘルメット使用に関する注意事項」の一部改正について <p>(その他)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 競走用燃料について (E30ガソリン関連)
2	令和8年 3月17日	BOATRACE 六本木 及び 各レース場 (リモート)	85名	<p>(報告事項)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各種事故概要 2. 当面の事故防止対策 <ol style="list-style-type: none"> (1) 防護具の開発・改善 (2) ボート・モーターの開発・改善 <p>(審議事項)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「モーターボート競走用指定プラグの取扱い要領」の一部改正について <p>(その他)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 競走用燃料について (E30ガソリン関連) 2. モーターボートの安全基準の制定について (予定)

(カ) レスキュー訓練

航走事故が発生した際、負傷選手を迅速に救助するとともに、安全円滑な競技を続行するため、各支部におけるレスキュー訓練を定期的実施した。

(キ) 体幹トレーニング

選手の体幹を強化することにより、レース中の転覆・落水等を抑止し、人身事故を防止するとともに、選手の身体能力の維持・向上を図ることを目的とし、全選手に対し啓蒙を図った。特に、登録6年未満の若手選手に対しては、トップルーキー講習会、フレッシュルーキー実技訓練での体幹トレーニング指導を実施し、ボートコントロール能力の向上等に努めた。

また、関連器具について、Ⅱ. 4. (1) (ア) に記載のとおり整備を行った。

(3) ボート等の改善に関する調査研究

(ア) ボート・モーターの性能改善研究

競走の魅力向上を図り、公正かつ安全なレースを実施するため、ボート・モーター等改善研究委員会を3回開催し、現用ボート・モーターの性能改善等に関する調査研究を行った。

- (a) 直線航走時の接触事故防止に関する調査（ステアリングバーの改良）
- (b) 試作マグネットに関する調査
- (c) エタノール混合燃料に関する調査
- (d) 競走用ボートの木材生産地の変更に関する調査
- (e) 競走用ボートの接着剤変更に関する調査
- (f) 次世代競走用モーターに関する調査
- (g) その他試作品の性能に関する調査

(イ) 防護具等の改善研究

人身事故の未然防止を図るため、救命胴衣等の安全性向上に関する調査研究を行った。

- (a) 救命胴衣の安全性向上に関する調査
- (b) ヘルメットの安全性向上に関する調査（シールドの撥水対策）
- (c) その他試作品の性能に関する調査

(ウ) 整備士制度の運営

「モーターボート整備士規程」に基づき、モーターボート整備士資格制度運営委員会を開催し、モーターボート整備士資格試験を実施して資格の付与を行った。

また、整備士の資質向上を目的として、整備士講習会を開催するなど整備士制度の運営を行った。

(a) モーターボート整備士資格制度運営委員会

「モーターボート整備士規程」に基づき、整備士の資格試験、講習会等に関する事項を審議するため、青葉六本木ビルにおいて1回開催した。

(b) モーターボート整備士資格試験の実施及び資格の付与

①モーターボート整備士資格試験

「モーターボート整備士規程」に基づき、1級・2級モーターボート整備士資格試験をヨコクラ病院及びボートレーサー養成所において実施した。

回	級	実施年月日	受験者数	合格者数
59	1級	令和7年 7月 3日	6名	2名
115	2級	・ 4日	11名	10名
116	2級	令和8年 2月20日	11名	11名

②資格の付与

項目	1級整備士	2級整備士	合計
令和6年度末の有資格者	73名	139名	212名
新資格者	2名	21名	23名
資格再付与者	2名	1名	3名
消除者	5名	14名	19名
令和7年度末の有資格者	72名	147名	219名

(c) 整備士講習会

整備士の資質向上を目的として、整備に関する知識及び技量の向上を図った。

①モーターボート整備士講習会

回	実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
1	令和7年 10月21日 ・22日	ボートレース 戸田	47名	1. 業界の一般情勢 2. 技術講話・技術実習 3. ビデオレポート 4. 技術課業務説明 5. 業務検討会 6. 施設見学
2	11月15日 ・16日	ボートレース 津	49名	
3	12月12日 ・13日	ボートレース 福岡	34名	
4	12月16日 ・17日	ボートレース 鳴門	33名	
5	12月19日 ・20日	ボートレース 尼崎	38名	

②2級モーターボート整備士試験講習会

モーターボート整備士として必要な知識と技術を習得させるとともに、競走の公正と安全を確保するうえで必要な業界の一員としての自覚や整備士心得等についても会得させ、2級整備士資格取得の一助となるための講習会を行った。

実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
令和8年 1月21日 ～2月19日	ヨコクラ病院 及び ボートレーサー養成所	11名	1. 整備 2. 計測 3. 操縦 4. 故障探究 5. 学科 6. 修了試験

7. 競走の公正かつ円滑な実施を図るための企画・立案

(1) 諸体制の強化

(ア) モーターボート競走連絡協議会

ボートレースの運営に関し、関係者間の連絡調整を図るとともに、レース場毎の年間開催回数及び年間開催日数について、レース場の運営体制等を勘案し、レース場間の調整を図った。

会議名・実施年月日	内 容
モーターボート競走連絡協議会 開催日数等調整会議 令和7年11月14日	1. 令和8年度モーターボート競走の 開催回数及び開催日数について

(イ) ボートレース会議

ボートレース業界全体で推進する施策について、中央団体の代表者を招集し、活性化策の意思決定を行う会議に参加した。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
10	令和7年 4月30日	書面決議	8名	1. ボートレース広告・宣伝 指針の改訂について
11	9月 9日	BOATRACE 六本木	8名	1. カーボンニュートラル 対応について 2. ギャンブル等依存症対策 統括管理者について 3. 重点施策について
12	令和8年 1月20日	書面決議	8名	1. ボートレース広告・宣伝 指針の改訂について 2. B O A T R A C E 7 5 周年ファン感謝デー準備 委員会の設置について

(ウ) ボートレース関係団体会議

ボートレース業界全体で推進する施策について、中央団体の代表者を招集し、活性化策の具体的検討を行う会議に参加した。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
44	令和7年 4月16日	BOATRACE 六本木	15名	1. 浜名湖スピードクイーン メモリアル施行者振り返り、 若松クラシック売上、2024年度 売上・スタート事故、 AI予測について 2. 重点施策の進捗報告に ついて
45	5月21日	BOATRACE 六本木	16名	1. 桐生マスタース売上、 GW特別あっせん競走 売上、常滑レディース オールスター売上、AI 予測、若松クラシック 施行者振り返りについて 2. 重点施策の進捗報告に ついて
46	6月18日	BOATRACE 六本木	16名	1. 丸亀オールスター売上、 桐生マスタース施行者 振り返り、AI予測に ついて 2. 重点施策の進捗報告に ついて
47	7月16日	BOATRACE 六本木	16名	1. 戸田グランドチャンピ オン売上、琵琶湖甲子園 売上、2025年上半期 売上、AI予測、締切 時間シミュレーションに ついて 2. 重点施策の進捗報告に ついて
48	8月20日	BOATRACE 六本木	15名	1. 徳山オーシャンカップ 売上、浜名湖レディース チャンピオン売上、AI 予測について 2. 重点施策の進捗報告に ついて

49	9月17日	BOATRACE 六本木	14名	1. 若松ボートレースメモリアル売上、A I 予測、特別あっせん振り返りについて 2. 重点施策の進捗報告について
50	10月15日	BOATRACE 六本木	15名	1. 宮島ヤングダービー売上、上半期売上関係、各種A I 予測について 2. 重点施策の進捗報告について
51	11月19日	BOATRACE 六本木	16名	1. 津ダービー売上、A I 予測について 2. 重点施策の進捗報告について
52	12月17日	BOATRACE 六本木	14名	1. 福岡チャレンジカップ売上、各種A I 予測について 2. 重点施策の進捗報告について
53	令和8年 1月21日	BOATRACE 六本木	15名	1. 住之江グランプリ売上、大村クイーンズクライマックス売上、2025年次売上、年末年始特別あっせん期間売上、各種A I 予測について 2. 重点施策の進捗報告について
54	2月18日	BOATRACE 六本木	14名	1. 尼崎ボートレースバトルチャンピオントーナメント売上、各種A I 予測について 2. 重点施策の進捗報告について
55	3月18日	BOATRACE 六本木	12名	1. 鳴門スピードクイーンメモリアル売上、各種A I 予測について 2. 重点施策の進捗報告について

(エ) 公営競技各団体との連絡会議等

(a) 公営競技企画連絡会議

他公営競技と各種情報の交換を図るため、各公営競技団体の事務所等において開催する会議に参加した。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
257	令和7年 6月 5日	船橋 競馬場	22名	1. 公営競技の当面の諸問題 について
258	11月 6日	ボートレース 蒲郡	19名	

(2) ボートレースの普及及びイメージアップを図るための広報

(ア) スター選手育成に関する事業

スター選手育成実行部会を開催し、スター候補選手の選考を行い、スター選手としての心構えや他競技のスポーツ選手による講話、メディア体験研修等のトップルーキー講習会やフレッシュルーキー実技訓練を実施し、スキルアップを図った。

また、地区別合同実技訓練担当者会議を開催し、地区別合同実技訓練の内容を見直すなど若手選手の技量向上に努めた。

(a) スター選手育成実行部会

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
27	令和7年 11月18日	BOATRACE 六本木	11名	1. スター選手育成制度 (選出基準変更等)に ついて 2. 2026スター候補選手 の選出について 3. 2026スター候補選手 のPR展開について 4. 2026トップルーキー 講習会について 5. 2026フレッシュルー キー実技訓練について

(b) 2026 トップルーキー講習会

実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
令和8年 1月26日 ・27日	文化放送 及び BOATRACE 六本木	15名	1. 他競技のトップアスリートによる講話 2. 体幹トレーニング 3. メディア講習会 4. テレビ・ラジオ出演体験

(c) フレッシュルーキー実技訓練

① 2025 フレッシュルーキー実技訓練

回	実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
2	令和7年 4月9日 ～11日	ボートレーサー 養成所	15名	1. 操縦 2. 実技指導選手による講話 3. スター選手育成実行部員 による講話
3	4月14日 ～16日		15名	4. 体幹トレーニング

② 2026 フレッシュルーキー実技訓練

回	実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
1	令和8年 3月2日 ～4日	ボートレーサー 養成所	16名	1. 操縦 2. 実技指導選手による講話 3. スター選手育成実行部員 による講話 4. 体幹トレーニング

(d) 地区別合同実技訓練

① 令和7年度地区別合同実技訓練担当者会議

実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
令和7年 10月17日	ボートレース桐生	15名	1. 次年度以降の訓練内容等 について

②実技訓練

地区	実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
関東	令和7年 6月11日 ・12日	ボートレース 多摩川	10名	1. 操縦訓練 (小型カメラ撮影含む) 2. 整備訓練 3. プロペラ修整
	9月12日	ボートレース 江戸川	9名	
	10月17日	ボートレース 桐生	8名	
東海	令和7年 9月 8日 ・9日	ボートレース 常滑	8名	
	10月30日 ・31日	ボートレース 蒲郡	11名	
	11月13日 ・14日	ボートレース 津	15名	
近畿	令和7年 6月 9日 ・10日	ボートレース 住之江	9名	
	11月 8日	ボートレース 三国	7名	
	11月10日 ・11日	ボートレース 琵琶湖	7名	
中四国	令和7年 5月23日 ・24日	ボートレース 鳴門	7名	
	9月 2日 ・3日	ボートレース 宮島	10名	
	9月30日 ・10月 1日	ボートレース 徳山	10名	
九州	令和7年 6月10日 ・11日	ボートレース 下関	13名	
	8月28日 ・29日	ボートレース 福岡	11名	
	11月14日	ボートレース 大村	11名	

(e) スター候補選手のパブリシティ

スター候補選手を積極的に活用することにより、各地のマスコミ（地方紙、全国紙支局、ラジオ等）において、スター候補選手自身のPRを通じてボートレースの啓発、主要レースの話題化を図るとともに、選手募集活動のPRを行った。

(イ) 広報の充実

(a) 広報活動

①SG競走等

8SG競走、6プレミアムGI競走、GII全国ボートレース甲子園競走・レディースオールスター競走、選手養成訓練修了記念競走・修了式、入所式、優秀選手表彰式典等の話題性のある内容について、お客さまをはじめ社会全般に対し、ボートレースの広報を行った。

②一般パブリシティ

Web、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等、全国のマスメディアに対してボートレース事業のパブリシティ活動を積極的に行い、業界のイメージアップを図った。

③ペイドパブリシティ

新聞、雑誌等のマスメディアへの選手募集を中心としたペイドパブリシティ活動を行い、選手の認知度向上、業界のイメージアップを図った。

④公式SNS

若年層の取り込みを図るため、公式SNSとしてのフェイスブック及びインスタグラムを運営し、SG競走等における密着レポート等の情報発信を定期的に行った。

(b) 資料作成等

業界関係者、マスコミ関係者に対する広報、宣伝活動に活用するための資料を作成した。

①各種レース写真提供及び競走成績に関する資料作成

②競技部内見学ツアーに関するガイドラインの策定

(c) 優秀選手の表彰

選手の競走意欲の助長とPR効果を高め、かつ、ボートレースのイメージアップを図るため、「優秀選手表彰規程」に基づき、選考委員会並びに表彰式典を行った。

①選考委員会

実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
令和8年 1月7日	BOATRACE 六本木	9名	1. 優秀選手表彰規程に基づく優秀選手の選出について

②優秀選手表彰式典

実施年月日	実施場所	参加者数	内 容
令和8年 2月13日	SIX WAKE HALL	30名	1. 選考委員会で選出された優秀選手表彰について

(ウ) 選手の募集

(a) 募集担当者会議

選手募集活動のあり方を検討し、円滑な募集活動の実施を図るため開催した。

実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
令和7年 4月9日	K I T E N A 新大阪	55名	1. 入所試験結果、養成訓練状況等について 2. 選手募集について 3. 入所試験WEBエントリーについて

(b) 選手募集活動促進のための広報

①入所試験WEBエントリーの運用

受験生の利便性向上を図るとともに、事務の効率化並びにペーパーレス化を実現するため、第140期選手養成員の募集よりWEBエントリーの運用を開始した。

②ポスター、パンフレット等の配布

第140期及び第141期選手養成員の募集活動として、振興会と協力し、募集用ポスター、パンフレット、選手募集サイトのQRコードを貼付したカード等を作成し、レース場、ボートレースチケットショップ等へ配布した。

③Web等を活用した資料請求

ボートレースオフィシャルWebや各レース場のホームページ、スマートフォンのサイトを活用した資料請求の通年受付を実施した。

④受験申請書のダウンロード

選手募集Webページにおいて、PDF及びEXCELの受験申請書のダウンロードを可能とし、受験生の利便性向上を図った。

⑤募集説明会等

入所試験の雰囲気を体験するとともに、ボートレーサー養成所への理解を深めることを趣旨として、ボートレーサー入所体験セミナーを実施した。

実施年月日	実施場所	出席者数	内容
令和7年 7月4日	ボートレーサー養成所	27名	1. 模擬入所試験 2. ペアボート乗艇 3. 施設見学
令和8年 2月6日		24名	

また、振興会が協賛するスポーツイベントにおいて選手募集ブースの設置協力を行ったほか、ボートレース場での募集説明会を随時実施した。

(エ) 資料の収集、諸統計の作成及び刊行物の発行

ボートレース事業の現況をお客さま及び関係者等に周知・徹底するため、各種資料を作成し、ボートレース業界のトピックス内容をSNSで配信した。

- ①ニュースリリース (随時)
- ②マンスリーレポート (毎月1回)
- ③公式SNS (年間約1,000回)

(3) 集客のための広報

(ア) SG競走等の広報支援

(a) SG競走の広報

来場促進と売上向上のために各種リリース発信、競走開催中の記者席対応等、幅広くマスメディアへの情報提供を行った。

(b) プレミアムGI競走等の広報

ボートレースバトルチャンピオントーナメント、クイーンズクライマックス、マスターズチャンピオン、ヤングダービー、レディースチャンピオン、スピードクイーンメモリアル、全国ボートレース甲子園、レディースオールスター等の注目度を高めるため、各種リリース発信、競走開催中の記者席対応等、幅広くマスメディアへの情報提供を行った。

(c) ボートレースオールスター及びレディースオールスター出場選手のファン投票方法の充実

ボートレースオールスター及びレディースオールスターのファン投票の効率化を図るため、マークカードによる投票を廃止し、ボートレースオフィシャルWeb及びスマートフォンを活用した投票を実施した。

(イ) 全国広報・宣伝担当責任者会議

振興会との共催で、全国広報・宣伝担当責任者会議を開催し、令和7年のボートレースCMなどボートレースに係る広報全般について、連絡・周知を図った。

実施年月日	実施場所	出席者数	内容
令和7年 12月2日	AP新橋	120名	1. 振興会広報部の事業概要等について

(ウ) 広報研修会議

ボートレースにおける広報活動の重要性を確認し、具体的な広報活動の進め方について研修を行い、本部広報課と支局の広報対応の強化を図った。

実施年月日	実施場所	出席者数	内容
令和7年 7月1日 ・2日	宮の沢サッカー場 他	15名	1. 基礎レクチャー 2. コンサドーレ札幌の地域戦略について 3. 施設見学

(4) ボートレースの発展のための調査研究

ボートレース業界全体で推進する施策について、活性化策の検討をボートレース関係団体会議及び同会議の分科会において行い、また、各種レースの売上分析等を実施した。

(5) 関係者の資質向上に関する事業

(ア) 人事研修会

執行役員及び幹部職員を対象に、自己分析とリーダーシップ及びコンプライアンスに係る知識習得等を図るため、人事研修会を実施した。

また、ボートレース徳山で発生した失格判定の誤りの主な原因となった審判員同士のコミュニケーション不足を補うため、職場の活性化や審判員同士の補完・連携・協力が円滑に行えるよう、伝達力・傾聴力・質問力などのスキルの習得を目指したコミュニケーション能力向上に関する研修会を実施した。

(イ) 労務研修会

執行役員及び幹部職員を対象にメンタルヘルス問題への対応強化に係る知識習得等を図るため、労務研修会を実施した。

(ウ) 階層別人事労務個別研修会

コンプライアンスに対する意識付けなどを行うことを目的として、管理職を対象に、アンガーマネジメント及びコンプライアンスに係る知識習得等を図るため、若手・中堅職員を対象に、リフレーミング及びコンプライアンスに係る知識習得等を図るため、また、準職員・特別嘱託・嘱託を対象に、コンプライアンスに係る知識習得等を図るため、それぞれ階層別人事労務個別研修会を実施した。

(エ) 考課者研修会

今後、新たに人事考課を行うこととなる可能性のある新任課長代理及び新任副主幹を対象に、人事考課に係る知識習得を図るため、考課者研修会を実施した。

(オ) 新人職員研修会

新人職員を対象に、競走会諸規程及びビジネスマナーに係る知識習得を図るため、新人職員研修会を実施した。

(6) 職員の人材育成に関する事業

各レース場におけるプロフェッショナル人材を育成し、将来にわたる安定した競技運営の実施を図るため、転勤制度や職員採用方法等の人事制度全般の見直しを検討した。

(7) コンプライアンス委員会

全ての業界関係者が各種法令を遵守し、社会的責任を果たすコンプライアンス体制の構築を行った。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
1	令和7年 7月28日	BOATRACE 六本木	13名	1. 令和7年度コンプライアンス責任者・遵守体制責任者について 2. 舟券の購入禁止対象者について 3. コンプライアンス研修会の実施依頼について
2	令和8年 2月9日	BOATRACE 六本木	14名	1. 元選手の来場について 2. コンプライアンス研修会の実施結果について

また、本会において、Ⅱ. 7. (5) (ア) 及び(ウ)に記載の研修会を実施した。

(8) その他の事業

(ア) 永年功労者の表彰

永年功労者表彰規程に基づき、永年にわたり本会関係者または選手としてボートレースの発展に寄与した功労者に対し、各レース場等において表彰を実施した。

勤続年数	競走会	選 手	合 計
30年	33名	30名	63名
20年	13名	44名	57名
合 計	46名	74名	120名

モーターボート整備士規程に基づき、永年にわたり整備士としてボートレースの発展に寄与した功労者に対し、各レース場において表彰を実施した。

勤続年数	整備士
30年	4名
20年	5名
合 計	9名

(イ) 売上新記録達成レース場の表彰

1 レース売上、1 日売上及び節間売上において新記録を達成したボートレース徳山に対し、売上新記録表彰を実施した。

8. 海事知識の普及

(1) アマチュアモーターボートレースの支援

各種アマチュアモーターボートレース等への協賛を行い、競走会会長賞を交付し、海事知識の普及を図った。

(2) ゴムボート大会等の実施

ボートレース事業への理解と海事知識の普及を図るため、レース場等において、近隣地域の住民を対象としたゴムボート大会等を実施した。

(3) 各地海事広報協会との共同事業の実施

レース場が存在する各地海事広報協会との共同により、主にレース場等を活用したパネル展示等を実施し、海事知識の普及を図った。

実施場所	実施年月日	内 容
ボートレース 桐生	令和7年 6月 8日	パネル展示等による普及活動
ボートレース 戸田	5月25日	サンクスフェスティバル開催時に普及活動
ボートレース 江戸川	9月28日	パネル展示等による普及活動
ボートレース 平和島	11月 1日	OTAふれあいフェスタ開催時に普及活動
ボートレース 多摩川	8月 3日	ゴムボート試乗会開催時に普及活動
ボートレース 浜名湖	9月 6日他	パドルボート乗船体験開催時に普及活動他
ボートレース 蒲郡	8月 1日他	伊勢湾クルーズ開催時に普及活動他
ボートレース 常滑	8月 1日他	伊勢湾クルーズ開催時に普及活動他
ボートレース 津	8月21日	ヨット乗船イベント開催時に普及活動

ボートレース 三国	7月26日	バーチャルボートレース体験開催時に普及活動
ボートレース 琵琶湖	10月11日	ファミリーカーニバル開催時に普及活動
ボートレース 住之江	11月9日他	住之江フェスティバル開催時に普及活動他
ボートレース 尼崎	8月24日他	尼崎ボートフェスティバル開催時に普及活動他
ボートレース 鳴門	8月2日	ゴムボート教室開催時に普及活動
ボートレース 丸亀	7月6日他	レスキュー艇体験乗船会開催時に普及活動他
ボートレース 児島	10月5日	児島キッズフェスティバル開催時に海洋教室を実施
ボートレース 宮島	8月3日	パネル展示等による普及活動
ボートレース 徳山	11月2日	シーサイドフェスタ開催時に海洋教室を実施
ボートレース 下関	7月5日	パネル展示等による普及活動
ボートレース 若松	6月28日	パネル展示等による普及活動
ボートレース 芦屋	6月15日	パネル展示等による普及活動
ボートレース 福岡	7月21日	パネル展示等による普及活動
ボートレース 唐津	6月8日	パネル展示等による普及活動
ボートレース 大村	9月27日	パネル展示等による普及活動

Ⅲ. 実施した競走実施業務以外の業務

旧選手宿舎等の遊休資産を売却した。

IV. 理事会、評議員会等の開催及び認可事項

1. 理事会、評議員会等

(1) 理事会

定款に基づき7回開催し、以下について審議を行った。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
83	令和7年 5月14日	BOATRACE 六本木	11名	第1号議案 令和6年度事業報告に関する件 第2号議案 令和6年度決算に関する件 第3号議案 公益目的支出計画実施報告書に関する件 第4号議案 競走会諸規程の一部改正に関する件 第5号議案 第20回評議員会の日時及び場所並びに目的である事項に関する件 報告事項 各理事の職務執行状況に関する件
84	5月30日付	書面決議	11名	第1号議案 役員報酬に関する件
85	7月10日	BOATRACE 六本木	11名	第1号議案 令和8年度SG競走等の開催地に関する件
86	10月21日付	書面決議	11名	第1号議案 競走実施業務規程関係実施細則の一部改正に関する件
87	令和8年 1月29日付	書面決議	11名	第1号議案 任期満了に伴う次期執行役員を選任に関する件

88	2月19日	BOATRACE 六本木	11名	第1号議案 令和7年度収支予算の一部変更に関する件 第2号議案 令和8年度事業計画に関する件 第3号議案 令和8年度収支予算に関する件 第4号議案 競走実施業務規程等の一部改正に関する件 第5号議案 競走会諸規程及び諸内規の一部改正に関する件 第6号議案 ボートレーサー養成所建替の設計及び施工業者選定に関する件 第7号議案 第21回評議員会の日時及び場所並びに目的である事項に関する件 報告事項 各理事の職務執行状況に関する件
89	3月26日付	書面決議	10名	第1号議案 振興会との取引に関する件

(2) 評議員会

定款に基づき1回開催し、以下について審議を行った。

回	実施年月日	実施場所	出席者数	内 容
20	令和7年 5月29日	BOATRACE 六本木	5名	第1号議案 令和6年度決算に関する件 第2号議案 監事の選任に関する件 第3号議案 役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程の一部改正に関する件 報告事項 令和6年度事業報告に関する件 公益目的支出計画実施報告書に関する件

2. 認可事項

(1) 役員を選任について

令和7年6月5日（国海総第80号）

(2) 競走実施業務規程の一部改正について

令和8年3月5日（国海総第354号）

(3) 令和7年度収支予算変更について

令和8年3月5日（国海総第355号）

(4) 令和8年度事業計画及び収支予算について

令和8年3月5日（国海総第356号）

3. 三規程委員会委員（令和8年3月31日現在）

(1) 選手、審判員及び検査員登録資格審査会

所 属	役 職	氏 名	備 考
弁 護 士		三 浦 雅 生	委 員 長
東京都六市競艇事業組合	事務局 長	村 野 正 義	
選 手 会	専務理 事	鈴 木 茂 正	
振 興 会	理 事	川 津 大 輔	
シヤハ°ン・ヘースホ°ール ・マーケティング	アドバイザー	井 野 修	

(2) 選手出場あっせん委員会

所 属	役 職	氏 名	備 考
振 興 会	常務理 事	香 川 洋 一	委 員 長
府中市ボートレース企業局	企業局 長	柏 木 茂 永	
選 手 会	専務理 事	鈴 木 茂 正	
競走会 桐生支部	執行役 員	渡 辺 和 幸	
競走会 本部	業務部 長	茅 野 知 宏	

(3) 選手、審判員及び検査員褒賞懲戒審議会

所 属	役 職	氏 名	備 考
弁 護 士		三 浦 雅 生	委 員 長
保 安 協 会	常務理 事	横 内 泉	
全 施 協	専務理 事	佐 藤 慶	令和8年3月24日現在
戸田ボートレース企業団	事務局 長	八木橋 英 一	
箕面市ボートレース事業局	ボートレース事業管理者	栢 本 貴 男	
施 設 協	事務局 長	赤 坂 忠 男	
選 手 会	専務理 事	鈴 木 茂 正	
競走会 本部	常務理 事	水 谷 剛	
競走会琵琶湖支部	執行役 員	森 江 幹 生	
競走会丸亀支部	執行役 員	尾 藤 弘 之	

4. 役員、評議員及び職員（令和8年3月31日現在）

(1) 役員 13名

役職名・氏名	現職
会長 小高幹雄	
常務理事 渡邊哲宏	
〃 水谷剛	
〃 森永洋	
理事 大内桂太郎	
〃 照沼幸雄	
〃 島崎豊	
〃 大北健吾	
〃 太田垣充	
〃 福島英毅	
〃 高野浩一	
監事 山本厚	弁護士
〃 安楽恒樹	税理士

(2) 評議員 5名

氏名	現職
笹川順平	公益財団法人日本財団 理事長
佐藤慶	一般社団法人全国モーターボート競走施行者協議会 専務理事※
佐野慎輔	産経新聞 客員論説委員
菅原悟志	公益財団法人B&G財団 理事長
三浦雅生	弁護士
(50音順)	※令和8年3月24日現在

(3) 職員等

令和7年度の採用者は55名、退職者は14名であった。

また、令和8年3月31日の現在員数は、741名であった。

5. その他

(1) 令和8年3月31日現在の株式保有の概要

名 称 : 株式会社日本レジャーチャンネル

事務所の所在地 : 東京都港区六本木5-16-7 BOATRACE六本木1階

資本金 : 1億円

事業内容 : ボートレースを主とした映像・情報の提供及びレジャー番組の
企画・制作

役員数及び代表者の氏名 : 9名 (非常勤4名含む)

代表取締役社長 伊東 高廣

従業員の数 : 70名

保有する株式数及び割合 : 1,000株、50%

当該株式等の入手日 : 平成4年4月17日

当会との関係 : 当会と株式会社日本レジャーチャンネルとは別組織体であり、
経理処理の混同、職員の兼務、不合理な資金融通等は一切行わ
れていない。